

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			基礎柔道整復総合学VI	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			伊藤 拓	講義形式	講義・演習
学習目標と講義概要			運動器に関する解剖学の知識を整理した上で、各種外傷の発生原因となる筋や腱、骨等の特徴について応用的知識を身に付けることを目的とする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	骨総論		
2	1	2	脊柱		
3	1	2	胸郭、上肢骨1		
4	1	2	上肢骨2		
5	1	2	下肢骨1		
6	1	2	下肢骨2		
7	1	2	頭蓋骨		
8	1	2	骨格筋		
9	1	2	頭頸部の筋		
10	1	2	胸腹背部の筋		
11	1	2	上肢の筋1		
12	1	2	上肢の筋2		
13	1	2	下肢の筋		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 授業態度、提出物等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
解剖学 改訂第2版: 医歯薬出版					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔整学Ⅸ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			木野田 浩平	講義形式	講義
学習目標と講義概要			医療人として必要な人体の構造を理解することを目的とする。 解剖学の知識を学び、修得することで柔道整復師の業務範囲を正しく判断できるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	脈管系1(総論・心臓)		
2	1	2	脈管系2(心臓・動脈系)		
3	1	2	脈管系3(動脈系)		
4	1	2	脈管系4(静脈系・リンパ系)		
5	1	2	内臓系1(消化器)		
6	1	2	内臓系2(消化器)		
7	1	2	内臓系3(消化器)		
8	1	2	内臓系4(呼吸器)		
9	1	2	内臓系5(呼吸器)		
10	1	2	内臓系6(泌尿器)		
11	1	2	内臓系7(泌尿器・生殖器)		
12	1	2	内臓系8(生殖器)		
13	1	2	内臓系9(生殖器)		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席) 3)授業態度、提出物等を加味する。					
教科書					
解剖学 改訂第2版:医歯薬出版					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔整学Ⅹ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			森 俊明	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復師として臨床現場に出た際、患者との信頼関係を構築できる医療人になるために必要な知識を身につけることを目的とする。生理学に関する知識を深め、患者の症状を深く観察し、生理学的知見から適切な判断ができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	生理学総論1		
2	1	2	生理学総論2		
3	1	2	筋の生理1		
4	1	2	筋の生理2		
5	1	2	運動の生理1		
6	1	2	運動の生理2		
7	1	2	神経の生理1		
8	1	2	神経の生理2		
9	1	2	神経の生理3		
10	1	2	感覚の生理1		
11	1	2	感覚の生理2		
12	1	2	内分泌1		
13	1	2	内分泌2		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況 (3分の2以上の出席)					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書 生理学:南江堂 解剖学:医歯薬出版					
教員について【実務経験有】 接骨院にて約6年の経験がある。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔道整復総合学Ⅲ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			鈴木 勇也	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			柔道整復学の基礎である柔理総論と臨床的知識である柔理各論(上肢の骨折)を学習し、柔道整復学を基礎から学ぶことを目的とする。総論からみた上肢の骨折の基礎的な理論を理解し、基本的な柔道整復術を学び各論に結び付けられるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	総論と各論の確認		
2	1	2	骨折の総論1		
3	1	2	骨折の総論2		
4	1	2	関節損傷の総論		
5	1	2	軟部組織損傷と診察の総論		
6	1	2	治療法の総論1		
7	1	2	治療法の総論2		
8	1	2	柔道整復学総論全般		
9	1	2	上肢骨折・脱臼の各論1		
10	1	2	上肢骨折・脱臼の各論2		
11	1	2	上肢骨折・脱臼の各論3		
12	1	2	上肢骨折・脱臼の各論4		
13	1	2	総復習		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)各单元ごとの確認プリント					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出欠席数					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編第7版:南江堂 柔道整復学実技編第2版:南江堂					
教員について【実務経験有】 担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔道整復総合学Ⅳ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			鈴木 勇也	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			柔道整復学の臨床的知識で柔理各論(上肢の骨折、上肢の脱臼)を学習し、柔道整復学を基礎から学ぶことを目的とする。臨床で出会う機会の多い外傷を学ぶ。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	上肢骨折の各論1		
2	1	2	上肢骨折の各論2		
3	1	2	上肢骨折の各論3		
4	1	2	上肢骨折の各論4		
5	1	2	上肢骨折の各論5		
6	1	2	上肢骨折の各論6		
7	1	2	上肢脱臼の各論1		
8	1	2	上肢脱臼の各論2		
9	1	2	上肢脱臼の各論3		
10	1	2	上肢脱臼の各論4		
11	1	2	上肢脱臼の各論5		
12	1	2	上肢脱臼の各論6		
13	1	2	総復習		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)各单元ごとの確認プリント					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出欠席数					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編7版:南江堂 柔道整復学実技編第2版:南江堂					
教員について【実務経験有】 担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔道整復総合学Ⅴ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			小林 耕平	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			柔道整復師として各外傷に対して実際の後療法について理解することを目的とする。特に物理療法において、超音波、超短波、低周波、高周波、干渉波、温熱治療器など、電気療法器具の種類や使い方、禁忌を把握し、外傷ごとに適応する器具の選択が速やかにできるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	肩部損傷における物理療法1		
2	1	2	肩部損傷における物理療法2		
3	1	2	肩部損傷における物理療法3		
4	1	2	上腕部損傷における物理療法1		
5	1	2	上腕部損傷における物理療法2		
6	1	2	肘部損傷における物理療法1		
7	1	2	肘部損傷における物理療法2		
8	1	2	前腕部損傷における物理療法1		
9	1	2	前腕部損傷における物理療法2		
10	1	2	前腕部損傷における物理療法3		
11	1	2	手部損傷における物理療法1		
12	1	2	手部損傷における物理療法2		
13	1	2	手部損傷における物理療法3		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況 (3分の2以上の出席) 3) 授業態度、提出物等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編第7版:南江堂 柔道整復学実技編第2版:南江堂					
教員について【実務経験有】					
担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔道整復総合学VI	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			羽田 哲也	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			下肢の外傷(骨折・脱臼・軟損)に対する説明ができるようにする。各骨折における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	骨盤骨折①		
2	1	2	骨盤骨折②		
3	1	2	大腿骨骨折①		
4	1	2	大腿骨骨折②		
5	1	2	大腿骨骨折③		
6	1	2	膝蓋骨骨折、下腿骨骨折①		
7	1	2	下腿骨骨折②		
8	1	2	足部の骨折①		
9	1	2	足部の骨折②		
10	1	2	足部の骨折③		
11	1	2	股関節脱臼		
12	1	2	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼		
13	1	2	足部の脱臼		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席) 3)臨時試験、授業態度等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔道整復総合学Ⅶ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			羽田 哲也	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			下肢の外傷(骨折・脱臼・軟損)に対する説明ができるようにする。各骨折における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	股関節部の軟部組織損傷①		
2	1	2	股関節部の軟部組織損傷②		
3	1	2	股関節部の軟部組織損傷③		
4	1	2	大腿部の軟部組織損傷①		
5	1	2	大腿部の軟部組織損傷②		
6	1	2	膝関節部の軟部組織損傷①		
7	1	2	膝関節部の軟部組織損傷②		
8	1	2	膝関節部の軟部組織損傷③		
9	1	2	下腿部の軟部組織損傷①		
10	1	2	下腿部の軟部組織損傷②		
11	1	2	足関節部の軟部組織損傷①		
12	1	2	足関節部の軟部組織損傷②		
13	1	2	足趾部の軟部組織損傷		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席) 3)臨時試験、授業態度等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔道整復総合学Ⅷ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			麓 康次郎	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			頭部体幹の外傷はときに重篤な合併症を伴うことを理解し学んでいく。そのためには頭部体幹の解剖学も含めて学ぶことを目的とする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	頭部体幹の骨折①		
2	1	2	頭部体幹の骨折②		
3	1	2	頭部体幹の骨折③		
4	1	2	頭部体幹の骨折④		
5	1	2	頭部体幹の骨折⑤		
6	1	2	頭部体幹の脱臼①		
7	1	2	頭部体幹の脱臼②		
8	1	2	頭部体幹の脱臼③		
9	1	2	頭部体幹の軟部組織損傷①		
10	1	2	頭部体幹の軟部組織損傷②		
11	1	2	頭部体幹の軟部組織損傷③		
12	1	2	総合演習①		
13	1	2	総合演習②		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況 (3分の2以上の出席) 3) 授業態度					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学・理論編：南江堂					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師、柔道整復師専科教員の資格を持ち、接骨院、整形外科での実務経験がある。また、日本ろう者柔道協会強化委員としてDEAF柔道のトレーナー、東京都公認パラアスリートスタッフである。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔道整復総合学Ⅸ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			羽田 哲也	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			臨床現場で遭遇しうる内科疾患の理解をさらに深め、治療法について説明ができるようになる。 また、正常な運動器の構造や機能を理解することで、治癒過程における評価・指導管理を適切に行えるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	診察概論		
2	1	2	診察各論①		
3	1	2	診察各論②		
4	1	2	診察各論③		
5	1	2	検査法		
6	1	2	主要な疾患①		
7	1	2	主要な疾患②		
8	1	2	損傷、炎症と外科感染症		
9	1	2	腫瘍、ショック		
10	1	2	輸液、輸血、消毒と滅菌、手術		
11	1	2	麻酔、移植と免疫、出血と止血		
12	1	2	心肺蘇生法、各論①		
13	1	2	各論②		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況 (3分の2以上の出席) 3) 臨時試験、授業態度等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
一般臨床医学:南江堂、外科学:南江堂					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床柔道整復総合学 X	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			伊藤 拓	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			柔道整復師に必要な医学的知識を総合的に教育し、多角的な視点で患者を診ることができるようにする。基礎的な医学および臨床医学とその応用に関する内容を習得する。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	医学概論1		
2	1	2	医学概論2		
3	1	2	復習①		
4	1	2	基礎医学1		
5	1	2	基礎医学2		
6	1	2	復習②		
7	1	2	臨床医学1		
8	1	2	臨床医学2		
9	1	2	復習③		
10	1	2	応用医学1		
11	1	2	応用医学2		
12	1	2	復習④		
13	1	2	応用医学3		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答・解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席) 3)臨時試験、授業態度等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂 、 解剖学:医歯薬出版 、 整形外科学:南江堂					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			統合教育科目Ⅰ	履修単位/時間	4単位/120時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			森 俊明 、 木野田 浩平 、 小林 耕平	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			柔道整復学、解剖学、生理学、運動学、病理学概論の知識を統合し、臨床で各疾患を鑑別できるようにすることを目標とする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1～5	1	2	解剖生理学まとめ1		
6～10	1	2	解剖生理学まとめ2		
11～15	1	2	解剖生理学まとめ3		
16～20	1	2	解剖生理学まとめ4		
21～25	1	2	解剖生理学まとめ5		
26～30	1	2	解剖生理学まとめ6		
31～35	1	2	柔道整復と社会保障制度		
36～40	1	2	運動学まとめ1(運動学総論 運動感覚 反射と随意運動)		
41～45	1	2	運動学まとめ2(姿勢 歩行 運動発達 運動学習)		
46～50	1	2	病理学まとめ1		
51～55	1	2	病理学まとめ2		
56～60	1	2	柔道整復必修まとめ		
合計					
60	60	120			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席)					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編第7版:南江堂 、 柔道整復学実技編第2版:南江堂 、 解剖学:医歯薬出版 、 生理学:南江堂 運動学:医歯薬出版 、 病理学概論:医歯薬出版					
教員について【実務経験有】					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (木野田先生)柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。 (小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			統合教育科目Ⅱ	履修単位/時間	4単位/120時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			森 俊明 、 天和 航平 、 羽田 哲也 、 小林 耕平 、 伊藤 拓	講義形式	講義/演習
学習目標と講義概要			衛生学・公衆衛生学、リハビリテーション医学、一般臨床医学、外科学概論、整形外科学、柔道整復学の知識を統合し、臨床で各疾患を鑑別できるようにすることを目標とする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1～5	1	2	衛生学・公衆衛生学まとめ1		
6～10	1	2	衛生学・公衆衛生学まとめ2		
11～15	1	2	衛生学・公衆衛生学まとめ3		
16～20	1	2	リハビリテーション医学 まとめ1		
21～25	1	2	リハビリテーション医学 まとめ2		
26～30	1	2	リハビリテーション医学 まとめ3		
31～35	1	2	一般臨床医学まとめ1		
36～40	1	2	一般臨床医学まとめ2 外科学概論まとめ1		
41～45	1	2	外科学概論まとめ2		
46～50	1	2	整形外科学まとめ1		
51～55	1	2	整形外科学まとめ2		
56～60	1	2	整形外科学まとめ3 柔道整復学まとめ		
合計					
60	60	120			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席)					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編第7版:南江堂 、 柔道整復学実技編第2版:南江堂 、 衛生学・公衆衛生学第6版:南江堂 、 リハビリテーション学第4版:医歯薬出版、一般臨床医学第3版:医歯薬出版 、 外科学概論第4版:南江堂 、 整形外科学第4版:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (天和先生)柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。 (羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。 (小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。 (伊藤先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			応用実技Ⅳ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2実習室
教員名			羽田 哲也 、 鈴木 勇也	講義形式	実技
学習目標と講義概要			歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。上肢の損傷および下肢の損傷における合併症について理解させ、適切な治療法を選定する能力、技術を習得させる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	上肢損傷時の診察1		
2	1	2	上肢損傷時の診察2		
3	1	2	上肢損傷時の検査法1		
4	1	2	上肢損傷時の検査法2		
5	1	2	上肢損傷時の整復法1		
6	1	2	上肢損傷時の整復法2		
7	1	2	下肢損傷時の診察1		
8	1	2	下肢損傷時の診察2		
9	1	2	下肢損傷時の検査法1		
10	1	2	下肢損傷時の検査法2		
11	1	2	下肢損傷時の整復法1		
12	1	2	下肢損傷時の整復法2		
13	1	2	ケーススタディ		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席) 3)臨時試験、授業態度等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。 (鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			応用実技Ⅴ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2実習室
教員名			羽田 哲也 、 鈴木 勇也	講義形式	実技
学習目標と講義概要			歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。上肢下肢体幹部損傷における合併症について理解させ、適切な治療法の選定と固定技術を習得させる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	上肢損傷時の応用的固定法1(包帯)		
2	1	2	上肢損傷時の応用的固定法2(包帯)		
3	1	2	上肢損傷時の応用的固定法3(テーピング)		
4	1	2	上肢損傷時の応用的固定法4(テーピング)		
5	1	2	下肢損傷時の応用的固定法1(包帯)		
6	1	2	下肢損傷時の応用的固定法2(包帯)		
7	1	2	下肢損傷時の応用的固定法3(テーピング)		
8	1	2	下肢損傷時の応用的固定法4(テーピング)		
9	1	2	体幹部損傷時の診察		
10	1	2	体幹部損傷時の応用的固定法		
11	1	2	ケーススタディ1		
12	1	2	ケーススタディ2		
13	1	2	ケーススタディ3		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
1)単位認定試験 2)出席状況(3分の2以上の出席) 3)臨時試験、授業態度等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。 (鈴木先生)担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			総合実技 I	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2実習室
教員名			羽田 哲也 、 小林 耕平	講義形式	実技
学習目標と講義概要			高いレベルの専門知識と臨床に直結できる技術力を習得させ、即戦力として社会貢献できる柔道整復師の養成を目的とする。診察および整復における高度な触診技術の重要性について理解させ、骨および筋各部の触診技術を習得させる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	上肢損傷時の細部触診1		
2	1	2	上肢損傷時の細部触診2		
3	1	2	上肢損傷時の細部触診3		
4	1	2	下肢損傷時の細部触診1		
5	1	2	下肢損傷時の細部触診2		
6	1	2	下肢損傷時の細部触診3		
7	1	2	頭・頸・背・腰部損傷時の細部触診1		
8	1	2	頭・頸・背・腰部損傷時の細部触診2		
9	1	2	診察演習1		
10	1	2	診察演習2		
11	1	2	診察演習3		
12	1	2	診察演習4		
13	1	2	診察演習5		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 臨時試験、授業態度等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(羽田先生) 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。 (小林先生) 担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			総合実技Ⅱ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2実習室
教員名			羽田 哲也 、 小林 耕平	講義形式	実技
学習目標と講義概要			歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。上肢骨折および脱臼における合併症について理解させ、適切な治療計画の選定と手技療法、運動療法、物理療法などの後療法技術を習得させる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	上肢骨折および脱臼における合併症		
2	1	2	上肢骨折に対する手技療法1		
3	1	2	上肢骨折に対する手技療法2		
4	1	2	上肢脱臼に対する手技療法1		
5	1	2	上肢脱臼に対する手技療法2		
6	1	2	上肢骨折に対する運動療法1		
7	1	2	上肢骨折に対する運動療法2		
8	1	2	上肢脱臼に対する運動療法1		
9	1	2	上肢脱臼に対する運動療法2		
10	1	2	上肢骨折に対する物理療法1		
11	1	2	上肢骨折に対する物理療法2		
12	1	2	上肢脱臼に対する物理療法1		
13	1	2	上肢脱臼に対する物理療法2		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 臨時試験、授業態度等を加味する。					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(羽田先生) 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。 (小林先生) 担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。					

2025年度 授業要項

区 分			専門分野	履修学年/学部	第3学年/昼
科目名			臨床実習Ⅳ	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	臨床実習室
教員名			伊藤 拓 、 羽田 哲也	講義形式	実習
学習目標と講義概要			柔道整復師として、様々な臨床の現場において対応ができるようになることを目的とする。実際の患者に対して、病態評価に基づいた施術計画を説明できるようになる。患者に対して指導管理ができるようになる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	接骨院の患者のアプローチ		
2	1	2	接骨院の患者のアプローチ		
3	1	2	接骨院の患者のアプローチ		
4	1	2	接骨院の患者のアプローチ		
5	1	2	接骨院の患者への対応		
6	1	2	小児の患者のアプローチ		
7	1	2	小児の患者のアプローチ		
8	1	2	小児の患者のアプローチ		
9	1	2	小児の患者への対応		
10	1	2	高齢者の患者のアプローチ		
11	1	2	高齢者の患者のアプローチ		
12	1	2	高齢者の患者のアプローチ		
13	1	2	高齢者の患者への対応		
14	1	2	スポーツ障害		
15	1	2	スポーツ障害		
16	1	2	スポーツ障害		
17	1	2	スポーツ障害の対応		
18	1	2	整形外科疾患		
19	1	2	整形外科疾患		
20	1	2	整形外科疾患の対応		
21	1	2	総まとめ1		
22	1	2	総まとめ2		
23	0.5	1	総まとめ3		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況 (3分の2以上の出席)					
「学則第24条、第25条、第26条、第27条、第28条」及び「学則施行細則第11条」並びに「単位認定・進級判定要領第1項」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編：南江堂 柔道整復学実技編：南江堂					
教員について【実務経験有】					
(羽田先生) 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					
(伊藤先生) 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整形外科や接骨院など臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かした授業を実施する。					